

「現場行政における麻疹予防対策の対応」

長野県松本保健所 羽場 町子

1 はじめに

3月頃から東京、埼玉等で大学を中心に患者発生報告の増加がみられた麻疹は、長野県内でも感染が徐々に広まりをみせ、松本保健所管内でも同様の傾向がみられ対応したので、その取り組みを報告する。

2 平常時の麻疹対応

麻疹（15歳未満）及び成人麻疹は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下感染症法）」の5類感染症である。発生状況の把握は、感染症発生動向調査により、指定届出機関（以下小児科定点（15歳未満の麻疹）及び基幹定点（成人麻疹））の管理者から届出要件を満たす患者（確定例）状況を週単位で届け出される。

なお、管内の小児科定点医療機関数は11（県55）か所、基幹定点は1（県11）か所である。

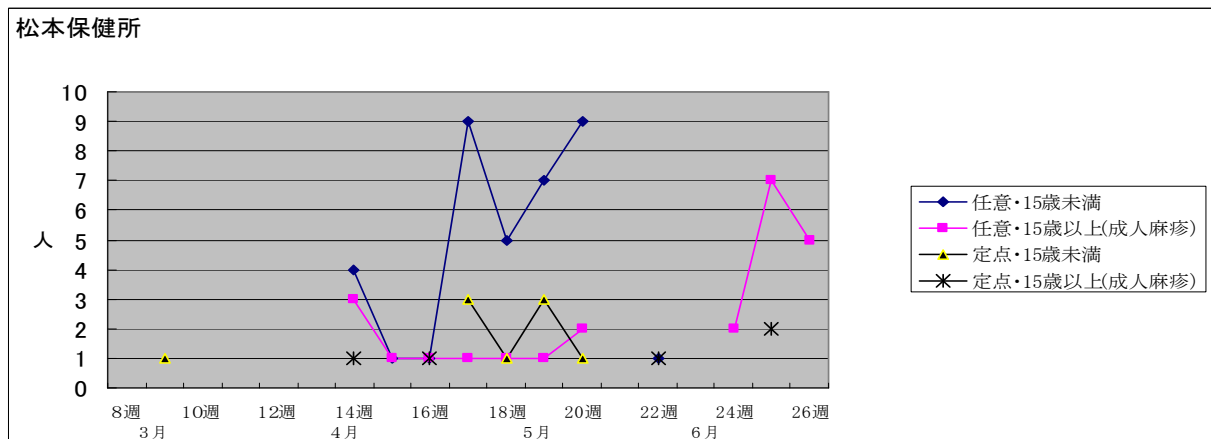
3 松本保健所の取り組み

(1) 発生状況

今年の麻疹発生状況は、2月下旬（第9週）の小児科定点から1名の報告があった。

4月5日、定点以外の医療機関から「3月末から麻疹の患者が3名（成人2名、小児1名）来院している。」との情報提供があった。

その後、県内各地で麻疹患者の増加がみられ、県では4月23日に全県への注意喚起を行うとともに、定点以外の医療機関の協力により、任意による患者発生情報の収集を始めた。



参考：長野県平成11（1999）年～平成18（2006）年の届出数

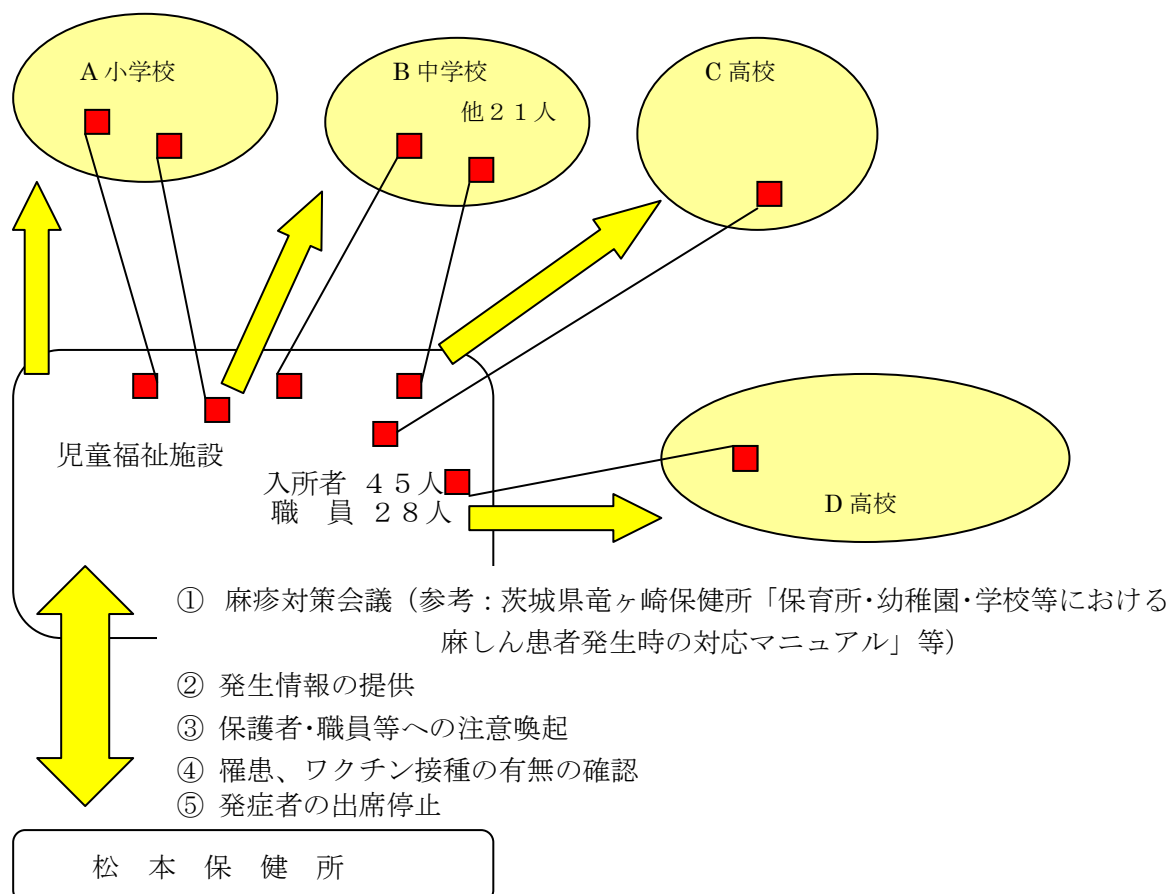
年	麻疹	成人麻疹	年	麻疹	成人麻疹
平成11（1999）年	32	2	平成15（2003）年	52	8
平成12（2000）年	54	20	平成16（2004）年	2	1
平成13（2001）年	322	12	平成17（2005）年	4	0
平成14（2002）年	99	5	平成18（2006）年	1	0

(2) 取り組み

ア 関係機関への情報提供と注意喚起

4月5日の定点以外医療機関からの情報提供に基づき、患者の家族や所属する集団に対する健康調査と二次感染予防対策を指導するとともに、管内感染症情報を通じ、医師会、教育委員会、市町村等へ情報を提供した。

イ 施設入所者の発症事例の係わりから



4月5日：定点以外医療機関から情報提供された者の一人は、管内児童福祉施設入所利用者であり（A小所属）、入所者の昼間の所属施設が複数にまたがること等の情報を収集。

保健所内での対応検討会を実施

4月6日：① 児童福祉施設内に麻疹対策会議（施設管理者等、嘱託医、保健所）を設置。
施設内外の二次感染予防策を目的に昼間の所属施設等への情報提供や入所者の健康把握等について検討。

② 具体的な対応内容

- ・ 昼間所属施設への情報提供（管理者～管理者、嘱託医～嘱託医）
- ・ 入所者、職員の麻疹罹患、ワクチン接種の有無確認
- ・ 毎朝の健康調査 体温計測し、37.5℃以上の場合は嘱託医に相談
- ・ 発症者の入院を含めた居室分け

- ・ 保健所への患者発生等の動向報告
- ・ ワクチン接種、γグロブリンによる予防策の検討

4月14日：B中学、C高校所属の各1名が新たに発症

4月15日：A小学校所属の1名発症

4月16日：D高校所属の1名発症

4月24日：B中学所属の1名発症

以降、児童福祉施設内に新たな発症はみられなかったが、B中学内において、4月24日から5月中旬にかけて21名の発症者がみられた。

ウ 予防接種希望者への対応

新聞やテレビ等で麻疹について報道されると、予防接種希望者からの問い合わせが殺到し、また、ワクチンの不足や抗体検査試薬の不足についても医療機関からよせられた。正確な状況把握がされない中で対応に苦慮するとともに、ワクチンの量に限りがある中で、予防接種の優先順位に配慮しながら個人の要望を尊重した対応が求められた。

4 まとめ

麻疹は、何年かの周期的な流行が報告がされているが、最近は散发例に留まっていた。

東京周辺の大学生を中心とした成人麻疹の発症例から端を発した今回の対応をとおり、以下の必要性を再確認した。

(1) 発症1例目報告時の予測と判断

感染症流行予測調査及び感染症発生動向調査

(2) 定点以外の医療機関を含めた発症事例の早期把握と早期共有

(3) 個人情報保護しつつ、関係機関の連携による二次感染予防の早期対応

(4) 注意喚起に向けた情報内容と発信方法の工夫

特に、県民に対する予防接種優先順位を含めた感染予防に関する知識の向上、対策への理解啓発

(5) 平時の対応

・ 定期予防接種率の向上

・ 施設等利用者及び職員の麻疹罹患、ワクチン接種の有無確認と未接種者や未罹患者へのワクチン接種の勧奨

・ 「患者発生時の対応マニュアル」の策定

いずれにせよ、市町村、医療、福祉、教育関係等との協力体制によって、その効果が発揮されるものであり、日ごろからの関係機関（者）間の連携強化が求められる。

5 おわりに

定点以外の医療機関からよせられた麻疹発症報告例の追跡等により、児童福祉施設及び小・高校の予防対策は効果を得たといえる。しかし、中学校での二次感染は否定できない状況である。今後も関係機関との連携強化により一層の感染症対策を進めるとともに、定点、定点以外の医療機関、医師会、施設嘱託医、学校医等の方々に感謝申し上げます。